

(生産局長賞)

# 青森県立五所川原農林高等学校

～未来の農業経営者をGAP認証を活用して育成！～

## <基本情報>

所在地：青森県五所川原市  
全校生徒：436名（うち  
GLOBALG.A.P.チーム28名）

## <経営概要>

経営面積：13.4ha  
栽培品目：りんご、米、メロン、  
※：認証品目は、ジャガイモ、ねぎ、  
下線があるもの トマト 他



## <GAPの取組状況>

急速に進むグローバル化に対応していくため、未来を担う高校生を国際的な次世代農業経営者として育成するため導入  
平成27年 8月：GLOBALG.A.P.チーム結成(15名)  
同年12月：りんごでGLOBALG.A.P.認証取得(日本の高等学校で初)  
平成28年12月：米でもGLOBALG.A.P.認証取得  
平成29年12月：新たにメロンを加えた3品目でGLOBALG.A.P.認証取得、GLOBALG.A.P.チームは28名に増大

## <販路拡大>

認証取得したことで、企業等との契約が新たに成立

- ・ANAの国際線ファーストクラス用に「米」を提供
- ・岩塚製菓の新商品用に「米」を提供
- ・県内老舗和菓子屋「おきな屋」、A-FACTORY(青森駅前にあるJR東日本グループの商業施設)へ「りんご」を提供
- ・大手量販店等から取引を求められており、現在、契約を検討中

## <人材育成>

- ・平成28年度から、GLOBALG.A.P.教育を教育課程に正式に取り入れており、食のグローバル化に対応した国際的な感覚を学んだ生徒を、毎年140名程度、社会に送り出すことが可能に
- ・GLOBALG.A.P.導入後は、65%が農業関連産業に進路を定め(導入前:35%)、導入前と逆転
- ・農家出身の生徒はGLOBALG.A.P.を実家に取り入れて農業法人を大きくすると決心し、農家以外の生徒も、大手市場のバイヤーや農業行政を目指し、GLOBALG.A.P.を自分の人生に生かそうとしている
- ・生徒の父親の声「うちの息子は変わった。GLOBALG.A.P.を学ぶ前は、力仕事の手伝いだった。しかし、GLOBALG.A.P.を学んでからは一生産者として議論ができるようになった」

## <輸出の取組>

中国四川省成都市にある伊藤洋華堂からGLOBALG.A.P.認証を取得したりんごの販売依頼があったことから、輸出に必要な手続きや書類作成まで、教員の手を借りながら生徒が行い、中国語での接客も勉強し、販売しながら、客層に合わせたマーケティングの必要性を学習

## <GAPの普及に向けた取組>

公開審査の実施により、地域内の農業者はもとより、県内外の農業者や農業高校の関係者、行政関係者等へも大きな波及効果あり、平成29年度だけで全国から延べ340人が見学に来訪